

第6章 1 えいが部「ダイ・ハード」(1989年)

クリスマスイブの夜に NY 市警の刑事ジョン・マクレーン (演:ブルース・ウィリス) は別居中の妻ホリー (演:ボニー・ベデリア) が勤める日系企業ナカトミ商事が主催するクリスマスパーティにやってきました。このナカトミ商事のビルはロサンゼルスにあるハイテクの超高層ビルにあるのですが、このビルでのクリスマスパーティをしているところに正体不明のテロリスト集団がこのビルを占拠してしまいます。何とかテロリストの目を逃れたマクレーンはたった1人で13名のテロリストたちとの戦いを開始します。テロリストたちは FBI をも手玉にするようなプロ中のプロ集団であり、マクレーンは何度も死にそうなピンチに陥ります。

しかし妻や子供たちへの想いとただ1人彼の味方ともいえるロス市警の警官アル・パウエル (演:レジナルド・ベルジョンソン) の励ましもあってくじけることなく戦い抜き、最後にはテロリスト集団のボスであるハンス・グルーバー (演:アラン・リックマン) をビルの外に投げ落として妻と抱き合うのでした。

監督: ジョン・マクティアナン

- ・ ノーマッズ nomad (1986年) - 兼 脚本
- ・ プレデター Predator (1987年)
- ・ レッド・オクトーバーを追え! The Hunt for Red October (1990年)
- ・ ザ・スタンド Medicine Man (1991年)
- ・ ラスト・アクション・ヒーロー Last Action Hero (1993年) - 兼 製作
- ・ ダイ・ハード 3 Die Hard: With a Vengeance (1995年) - 兼 製作
- ・ トーマス・クラウン・アフェアー The Thomas Crown Affair (1999年)
- ・ ローラーボール Rollerball (2002年) - 兼 製作
- ・ 閉ざされた森 Basic (2003年)

撮影監督: ヤン・デ・ボン

監督作品

- ・ スピード Speed (1994年) - 監督
- ・ ツイスター Twister (1996年) - 監督
- ・ スピード 2 Speed 2: Cruise Control (1997年) - 監督・原案・製作
- ・ ホーンティング The Haunting (1999年) - 監督・製作総指揮
- ・ トゥームレイダー2 Lara Croft Tomb Raider: The Cradle of Life (2003年) - 監督

出演 ブルース・ウィリス

- ・1987 ブラインド・デート Blind Date ウォルター・デイヴィス
- ・1990 虚栄のかがり火 The Bonfire of the Vanities ピーター・ファロー
- ・1991 ラスト・ボーイスカウト The Last Boy Scout ジョゼフ
- ・1994 パルプ・フィクション Pulp Fiction ブッチ・クリッジ
- ・1995 12 モンキーズ 12 Monkeys ジェームズ・コール
- ・1997 フィフス・エレメント The Fifth Element コーベン・ダラス
- ・1998 アルマゲドン Armageddon ハリー・S・スタンパー
- ・1999 シックス・センス The Sixth Sense ドクター・マルコム・クロウ
- ・2022 2022 シン・オブ・アメリカ American Siege ベン・ワッツ 本劇場未公開

アラン・リックマン

- ・1991 ロビン・フッド Robin Hood: Prince of Thieves 司法官ジョージ
- ・1992 ボブ★ロバーツ Bob Roberts ルーカス・ハート三世
- ・1996 ラスプーチン Rasputin ラスプーチン エミー賞主演男優賞
- ・2001 ハリー・ポッターと賢者の石 セブルス・スネイプ
- ・2016 アリス・イン・ワンダーランド/時間の旅 アブソレム (声のみ) 遺作

<エピソード>

当時の有力なアクション映画の典型はアーノルド・シュワルツェネッガーのような筋肉隆々の無敵のマッチョマンであり、実際、シュワルツェネッガーにもオファーを出したが、コメディへの進出を希望していた彼は『ツインズ』(1988年)に出演するために辞退した[3]。当時ブルース・ウィリスは、主にロマンティック・コメディのテレビシリーズ『こちらブルームーン探偵社』において、シビル・シェパードの相手役として、コメディタッチな役柄を演じていたことで知られていた。オファーを受けたウィリスは、当初『こちらブルームーン探偵社』出演のための契約義務からオファーを断ったが、シェパードが妊娠したことで番組の製作が11週間中断することとなり、オファーを受けるのに十分な時間が生じた。

本作の製作直前に、『トワイライトゾーン/超次元の体験』(1983年)の撮影現場で死亡事故が発生したことにより、映画のスタントに対する認識が変わり、映画そのものよりも映画のスタッフを優先するようになった。それでもウィリスは腰に消火ホースを巻き付けてナカトミプラザの屋上から飛び降りるシーンだった。このスタントは5階建ての駐車場で行われ、25フィート(7.6m)の高さからエアバッグの上に飛び降り、同時に背後で60フィート(18m)の爆炎が上がるというものであった。ウィリスはこれを最も過酷なスタントの一つに挙げている。実際に爆風に押されたことでエアバックの端の方に落ち、スタッフは彼が死んだのではないかと心配した。